

(様式第9号)

高槻市立五領中学校区 学校運営協議会 会議録

令和7年2月27日作成

会議の名称	令和6年度 第3回五領中学校区 学校運営協議会		
会議の開催日時	令和7年2月27日 (木) 18:30 ~ 20:00		
会議の開催場所	高槻市立五領小学校 多目的室	公開の可否	可
担当課	教育指導課 教育総務課	傍聴者数	0人
非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む)の場合)			
出席委員	石井 英真 神原 陸 北村 翼 谷本 紀子 中井 法子 松井 敦 萬谷 由美 柳田 元		
事務局出席者	(五領中) 西田 太郎 松丸 寛 安東 大輝 福田 竜也 大黒 景子 南野 香那 佐治 裕介 (五領小) 西田 佳弘 和田 博之 高嶋 温子 瀧村 恵実 小林 秀吾 田中 良享 (上牧小) 高田 聖美 中西 浩二 札幌 康浩 吉岡 俊和 三浦 聡子 福田 あや 正木 なつみ		
会議の議題	1. (報告第1号) 令和6年度の取組に対する成果と課題 2. (報告第2号) 令和7年度に向けて(案) 3. (説明) 令和7年度の予定について		
配付資料	資料1 説明スライド印刷資料 資料2 令和6年度 五領中学校区グランドデザイン 資料3 五領中学校区アクションプラン(案) 資料4 人権教育の流れ(R7年度) 資料5 地域学習の流れ(R7年度) 資料6 学校教育活動サポーター募集チラシ(案)		
審議等の内容	・グランドデザインに基づく令和6年度の取組に対する成果と課題 ・令和7年度の計画について		

(別紙)

令和6年度第3回高槻市立五領中学校区 学校運営協議会 会議録

議事日程

1. (報告第1号) 令和6年度の取組に対する成果と課題
2. (報告第2号) 令和7年度に向けて(案)
3. (説明) 令和7年度の予定について

(18時30分開会)

学校

挨拶

会長

それでは、議案1「R6年度の取組に対する成果と課題」に移ります。事務局より、校区の取り組みについて報告してください。

委員

これより、質疑応答に移ります。

私自身、学校現場にいたころから、学校教育自己診断アンケートにおいて、総合的な学習の時間の評価が低い傾向にあることを感じていました。これは、子どもたちが総合的な学習の時間の意義や内容を十分に理解できていないことが一因ではないかと考えています。

先日、「鶴殿のヨシ原焼き」が行われました。この地域に根ざした行事を通じて、子どもたちは地域の文化や自然環境を身近に感じることはできたのではないのでしょうか。

また、総合的な学習の時間で防災教育に取り組んでいることを伺いました。実際に南海トラフ大地震が発生した場合、子どもたちはどこへ避難することになっているのでしょうか。

東日本大震災では、子どもたちが自ら判断し、避難したことで命を守ることができた事例もあります。五領校区では、具体的にどのような避難経路や避難場所について指導を行っているのか、お聞かせいただければと思います。

次に、学校運営協議会がスタートした当初、先生方に負担がかかるのではないかと心配していました。実際に運営が進む中で、先生方の校区連携に対する意識はどのように変化してきたのでしょうか。

この校区は特に地域との連携が活発に行われているため、他の校区から転勤してきた先生方の中には、「なんだか大変だ」と感じる方もいるのではないかと思います。そうした先生方は、この校区の連携の仕組みをどのように受け止めているのか、率直なご意見を伺いたいと思います。

学校

総合的な学習の時間については、生徒にその目的を明確に伝えることで、学びがより深まると考えています。しかし、現状では、生徒自身が総合的な学習の時間を意識して取り組んでいるのかははっきりしない部分があります。

おそらく、「特別活動（特活）」と「総合的な学習の時間」を混同している生徒が多いのではないかと考えています。そのため、教職員が意識的に指導し、両者の違いを明確にすることが必要だと思います。

また、南海トラフ地震に関しては、中学校では「たかつき安全 NOTE」に掲載されている内容を授業で扱っています。小学校でも同様に指導が行われており、引き続き、生徒たちが適切な避難行動をとれるよう、学びを深めていきたいと考えています。

学校

小学校でも防災教育で、（南海トラフのことを）子どもたちへ話をしております。実際、避難訓練の訓練時に合わせて、話をしたり、安全ノートを使って、そういった南海トラフ大地震が発生した場合のイメージをしたり、映像を見たりして、防災教育に取り組んでおります。

委員

実際にどこへ逃げるのかは、説明しにくいですね。

学校

防災教育に関する取り組みについては、訓練のたびに「どこへ逃げるのか」「どこに集まるのか」といったことを子どもたちと確認しています。この校区では、水害のリスクが高く、氾濫時には水位が 6.6m にも達する可能性があります。そのため、状況に応じた迅速な判断が求められます。安全を確保するためには、訓練の回数を増やし、子どもたちが実際の危険に対する知識と行動力を身につけることが必要です。

総合的な学習の時間については、活動後に子どもたちに具体的な学習でのエピソードを伝えていくことで、総合的な学習の時間で学んだ意味や内容がよりわかり、アンケートの理解も深まるのではないかと考えています。指導者が授業のゴールや目的を子どもに明確に示し、子どもが理解をし、理科や国語科など他の教科と関連づけながら、総合的な学習の時間の学びのイメージとしてつなげていくことが大切だと感じています。

校区全体として、総合的な学習の時間を通じて、多くのことを学ぶ機会が提供されています。机上の学習だけでは得られない本物の知識を得ることができ、また、関わる大人の数が増えることで、教職員にとっても視点が広がり大きな励み（エンパワーメント）につながっています。

地域の方々にご協力いただくことで、子どもたちは学びに対して、多角的な視点を得ることができ、授業全体をより広い視野で見ることができています。今後は、地域の方々との打ち合わせを簡素化し、学校の魅力を発信しながら、より多くの方々に総合的な学習の時間や学校の教育活動に参画していただきたいと考えています。

来年度は、総合的な学習の時間をさらに充実させ、より深い学びができるよう取り組んでいきたいと思っています。今後とも、地域の皆さまと協力しながら、子どもたちの成長を支えていきたいと考えています。

学校

アンケートの項目に「3年生から総合的な学習の時間のほかに、キャリア学習をしていますか」という設問がありますが、この数値が低い傾向にあります。これは、キャリア学習が総合的な学習の時間だけでは十分に実施できていないことを示しているのではないかと考えます。今後は、各

教科と関連づけながら、より効果的にキャリア学習を進めていく必要があります。

また、「これが総合的な学習の時間だよ」と児童自身が判断するのは難しいため、学びのつながりを意識させる工夫が求められます。

防災教育については、国土交通省からの通知により、市内で浸水の危険性が高い高槻市の小中学校の 1・2・3 位に、この校区が含まれていることが明らかになっています。そのため、特に垂直避難（上階への避難）に重点を置き、子どもたちに意識させる取り組みを進めています。

登下校中の避難訓練まではなかなか実施が難しいものの、学校にいる間は「とにかく上に逃げる」という練習をしています。その後の行動についても、少しずつ発展させて一歩ずつ進めているところです。

さらに、先生がいなくても子どもたちが自ら適切な行動を取れるよう指導を行っています。南海トラフ大地震については、詳細な説明はしていませんが、この校区が浸水する可能性があることや、津波が発生する危険性については指導を進めています。

今後も、防災教育やキャリア学習を教科と連携させながら充実させ、子どもたちが自ら考え、行動できる力を育てていきたいと考えています。

学校

中学校でも、垂直避難の訓練を実施しています。しかしながら、登下校中や週末など、学校外で災害が発生した場合にどう行動するべきかについて、さらに指導を充実させる必要があると考えています。

例えば、「北側に向かって逃げる」といった具体的な避難行動について、生徒が状況に応じて判断できるようにすることが大切です。

週末などの避難方法については、来年度に向けて、地域と連携しながら具体的な対策を考えていければと思っています。

学校

そうですね。地域の方と一緒に考えていきたいと思っています。

委員

他の方は、いかがでしょうか

委員

学校は、子どもたちの学びに力を入れて取り組んでいます。しかし、保護者の意識が、その取り組みに追いついていないように感じました。

先日、授業参観で 3 年生の算数の授業を見ました。「1 キロを測ろう」という授業で、子どもたちはグループで筆箱などを測りに乗せながら、1kg を測る活動をしていました。友だちと話し合いながら、楽しそうに取り組んでいる姿がとても印象的でした。この授業は、学校のグランドデザインに沿って工夫されており、子どもたちが主体的に学ぶ姿がしっかりと見られました。

しかし、ある保護者の方から「私たちは、何を見せられているんやろ？」という声が聞こえてきました。その言葉を聞いて、正直もどかしい気持ちになりました。

保護者は、子どもたちが主体的な学びに取り組んでいることを理解できていないのではないかと感じました。多くの保護者は、自分たちが受けてきた昔の授業のイメージを持ったままで、その変

化についていけないのではないのでしょうか。

一方で、先生たちは非常に工夫を凝らし、子どもたちの目が輝くような授業を作り上げています。これこそが「学び」なのに、保護者だけがその変化から取り残されているように感じました。

また、保護者は「認知能力（知識や計算力）」ばかりを重視しがちですが、先生方は「非認知能力（協調性や主体性）」を育てる授業を実践されています。しかし、その重要性が保護者に伝わっていないのかもしれませんが。子どもたちが「友だちと話し合う」「自分で考える」「試行錯誤する」といった力を身につけることが、将来的にどれほど大切なのかを、もっと理解してもらう必要があると感じました。

これからは、子どもたちへの指導だけでなく、保護者への働きかけも重要になるのではないのでしょうか。学校が目指している教育の意義や、今の学びの形を保護者にしっかり伝え、理解を深めてもらう取り組みが必要だと強く感じました。

学校

グランドデザインは共有されていますが、保護者の皆さんがそれを理解しているか、別の問題です。配布しただけで、理解できるのかどうかわかりません。今後は、誰が見てもわかる言葉や見栄えを変えることが必要だと思います。アクションプランもあるので、それを付け加えて、伝える方法を検討します。

委員

先生たちは、これ以上、がんばらなくていいと思います。保護者側がアップデートしていく必要があります。

学校

保護者との協働をどうするのか。子どもの成長やその変容を通して、お家の方へ伝えていくことが必要です。声が増えていくと、保護者の間で伝播していくと思います。保護者への働きかけ方ですが、ホームページ等を使って広報したり、保護者懇談会でアプローチをしたり、数を打ちながら、いろんなつながりを作りたいと思います。実際、保護者同士のつながりも、希薄になってきています。また、さらにコミュニティ・スクールの魅力を発信していければと思います。

委員

今回の協議会では、希望を感じるお話ができました。最近、ある本を読んで、「Z世代」に続く新しい世代として「α世代」が登場していることを知りました。α世代とは、0～15歳の子どもたちで、生まれたときからスマートフォンが身近にある世代のことを指すそうです。

私は、この世代の子どもたちが、スマホに載っている情報だけを「正しい」と思い込んでしまうことが少し心配です。例えば、「赤」といってもいろいろな赤があるように、物事にはさまざまな側面があります。でも、スマホの画面だけを見て判断してしまうと、その違いや深みを感じるのが難しくなってしまうのではないかと思います。正しい情報を見極める力を育てるためにも、実際に「体験」することがとても大切だと、私は強く感じています。

私たちの校区にある三つの学校では、地域の皆さんと協力しながら、いろいろな体験活動が行われています。この取り組みは本当に素晴らしく、これからも続けていきたいと思っています。

先日、関西大学初等部の3年生の授業に、ゲストティーチャーとして参加しました。そのとき、

担任の先生が「サポーターを募集したいが、どうすればいいかわからない」と悩んでいました。そこで、学校図書館の司書の方に相談したところ、お話会のメンバーが関わっていることがわかり、昔の生活を知っている方々を紹介してもらいました。授業では、グループ学習の形をとり、それぞれのグループにゲストが入り、一緒に意見を出し合いながら学んでいました。とても良い学びの場になったと思います。

ここ五領中学校区では、地域の皆さんがとても協力的で、授業に関わってほしいとお願いすると、すぐに誰かが手を挙げてくれる環境があります。こうしたつながりが確立されていることは、本当に素敵なことだと感じます。これからもサポーターを募集し、学校に関わってくださる方がもっと増えてくれると嬉しいです。

最近、家庭が忙しすぎて、親子の会話や体験の時間が減り、自然に触れる機会も少なくなっています。だからこそ、小中学校では、子どもたちが「五感」をしっかりと使って学ぶことが大事だと思います。五感を研ぎ澄ますことができなければ、子どもたちは自分で情報を取捨選択できなくなってしまうのではないかと心配です。スマホの情報だけが「正しい」と思い込んでしまうのは、やはり危険ではないでしょうか。

例えば、以前、あるお母さんが「紙おむつのCMで見た便の色と、うちの子の便の色が違う。どうしたらいいのかしら？」と本気で悩んでいたという話を聞いたことがあります。画面に映るものが「正解」だと思ってしまうと、それ以外のものを不安に感じてしまうのです。α世代の子どもたちは、こうした傾向がさらに強くなるのではないかと心配です。

だからこそ、私たちは、地域と連携しながら、さまざまな体験の場を作り、子どもたちが人と関わり、心を育んでいけるようにしていきたいと思います。これからも、地域の皆さんと一緒に、子どもたちの成長を支えていきたいですね。

委員

今回の発表を聞いて、子どもたちの姿がよく見えました。「総合的な学習の時間」が子どもたちにとってわかりにくいのであれば、もっと親しみやすい名前をつけるのも一つの方法ではないでしょうか。例えば、ある高校では「キャリア」や「ライフ」について学ぶ授業を「ドリカムキャリア（DCC：Dream Come Career）」や「ドリカムライフ（DCL：Dream Come Life）」と名付け、言いやすく、イメージしやすいものにしています。学びの目的や内容が明確に伝わらないと、子どもたちの理解度や関心が低くなってしまうことも考えられます。

一方で、保護者の関わりについても課題を感じます。地域の委員会活動など、面倒なことには関わりたいがらない大人が増えているように思います。PTA活動も同様で、大人が率先して関わる姿を子どもたちに示せていないのではないのでしょうか。

参観授業の際、大人から「これは何のための授業なの？」という声がありました。しかし、この授業の目的は、単に「1kg とは何か」を学ぶことではなく、友だちと一緒に学ぶことの大切さを知ることでした。1+1=2 という計算の正確さよりも、子どもたちが互いの価値観を尊重し、相手の気持ちを理解することを大切にしていたのです。保護者にも、授業を参観する際の「めあて」を提示することで、子どもたちの学びをより深く理解してもらえないのではないかと思います。例えば、「あたたかい声を掛け合う子どもたちの姿を見てほしい」といった視点を示すのもよいかもしれません。

この校区には課題もありますが、強みを伸ばしていくことが大切です。「子どもたちの主体性が弱い」と感じるがありますが、それは五領地区特有の問題なのではないでしょうか。それとも、時代

の流れとして、どこでも見られる傾向なのでしょうか。

また、大人自身も「目立ちたくない」と考える人が多く、PTA 活動でも「やってみると楽しい」と感じるものの、最初の一步を踏み出せないことが多いように思います。「何が正しく、何が正しいのか」を判断することは、大人にとっても難しいものです。だからこそ、地域の強みを活かしながら、弱みを補い、五領地区ならではの資源を積極的に活用していくことが大切です。

地域の人材をどう活かしていくかも大きな課題ですが、それ自体が地域の強みになり得ると考えます。例えば、あいさつ運動では、実施期間中は意識的にあいさつが交わされますが、普段から子どもたちと接しているのは教職員です。しかし、先生の中にも積極的に声をかける人とかけない人がいます。子どもたちが自然にあいさつを返す環境をどう作るかを考えることも重要ではないでしょうか。

今後、地域の強みを活かしながら、子どもたちの成長を支える仕組みをつくっていくことが必要です。

委員

生徒たちは活発に活動しており、通常の授業と総合的な学習の時間のバランスをどのように捉えているのかが重要になっています。授業内容も変化し、現在では PC を活用する機会が増え、世の中の変化に対応する力が求められています。こうした技術を使いこなしながら生活していくことが必要であり、多様性を理解し、認め合うことも大切です。そのための議論も行われていますが、実際には大人の方が世の中の流れを誤った方向へ導いてしまっているのではないか、という疑問もあります。

こうした状況の中で、学校の校区に限らず、地域と密接に関わりながら活動していくことの重要性が改めて問われています。通常の勉強とのバランスを考えながら、地域の課題にも目を向けることが必要です。特に防災に関しては、「地区防災会」という組織があり、水害や地震といった災害にどう対応するのかを考える機会を提供しています。

防災活動においては、児童生徒が関わるのが求められており、特に中学生が頼りになる存在です。小学生にとっても、中学生が身近な手本となることで、地域での役割を意識しやすくなります。高学年の児童や中学生が積極的に地域の活動に参加し、防災意識を高めながら成長していくことが大切です。学校と地域が連携しながら、生徒たちが主体的に学び、行動できる環境を整えていく必要があります。

委員

先生方は日々熱心に取り組んでおり、授業の進行や時間割の調整など、大変な状況であることがうかがえます。私たちは国語や理科、社会といった教科については理解しやすいものの、「総合的な学習の時間」については分かりにくいと感じています。生活科のように具体的なイメージがあるものは理解しやすいですが、総合的な学習の時間とは何か、と問われると、保護者にはなかなか伝わりにくいのが現状です。

本来、学校は「読み・書き・そろばん」から始まり、子どもたちが社会で生きていくための力を育む場所です。その視点から考えると、「総合的な学習の時間」はまさに社会に出るための学びを深めるものですが、保護者にとっては「科目」として明確に分類されていないため、内容を理解しにくいかもしれません。

こうした背景を踏まえ、授業参観の際に保護者へ説明することが求められます。事前に説明を行

うのか、授業後に話すのかといった工夫が必要です。ただし、これが教員にとって負担になってしまいう可能性もあるため、学習指導要領を保護者にも読んでもらう機会を設けることも一つの方法かもしれません。

防災に関しても、地域ごとに具体的なリスクを把握し、それに基づいた取り組みを進めることが重要です。例えば、南海トラフ地震についてよく話題になりますが、高槻市の五領地区では津波の直接的な影響は少ないと考えられています。しかし、淀川が決壊した場合は、大規模な浸水が発生し、5～6メートルもの水害が予想されるため、大きな問題となります。

何百年に一度のリスクではあるものの、地形的に危険な場所があることは確かです。淀川のどの部分が脆弱で、どのような対策を取るべきなのかを地域ごとに検討する必要があります。また、南海トラフ地震の際に淀川が逆流して津波が遡上する可能性についても議論されますが、五領地区ではその心配は少ないと考えられます。一方で、大阪市内ではそのリスクが指摘されることもあります。このように、同じ災害でも地域によって影響が異なるため、それぞれの特性に応じた防災対策が求められます。

また、過去に氷室川や水無瀬川が決壊して浸水被害が発生したこともありました。その際の主な原因は排水機場が機能しなかったことでした。このような事例を踏まえ、五領地区独自の防災対策を考え、他地域の取り組みを参考にしつつも、自分たちに合った方法を見つけていくことが大切です。そのためには、具体的な報告書を作成し、地域の防災計画を共有していく必要があります。小中学校の先生方は非常によく取り組んでおり、休日も関係なく対応している状況です。遅くまで残業をすることも珍しくなく、働き方改革の観点から見ても課題が多いのが現状です。

民間企業では、残業や振替休日の制度が整備されていますが、学校現場では「世の中がこうだからこうしよう」という単純な考え方では対応しきれません。地域の実情に合わせた柔軟な取り組みが必要であり、働き方改革の一環として、教員の負担軽減をどのように進めていくかが今後の課題となります。

委員

これまでの取り組みを振り返ると、学校だけでなく、保護者や地域にも広げていくことが課題であると感じています。防災教育の一環として中学校を訪問し、地域との連携を深める機会がありました。学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が始まり、先生方の顔が見える関係が築かれつつあります。「〇〇先生ですね」と声をかけられるようなつながりが生まれ、先生方の存在が地域の中でより身近なものになっています。

先生方が元気であることは、学校全体の活気につながる重要な要素です。子どもたちにとっても、地域にとっても、先生方が明るく元気であることが大きな意味を持つと考えます。また、あいさつについても、大人が率先してできているかを改めて考える必要があります。あいさつをする人もいれば、しない人もいるのが現状ですが、大人が模範となることで、子どもたちと一緒により良い環境をつくっていけるのではないのでしょうか。

今後は、地域のさまざまな方々とのつながりを広げ、学校の活動に関わってもらうことが大切です。すでに「何かできることはないか」と声をかけてくださる方もおり、そうした思いを持つ方々とともに、学校の取り組みをより充実させていきたいと考えています。地域のサポーターを募り、力を合わせながら、さらに学校を元気あるものにしていきたいと思っています。

委員

学校運営協議会は、学校と地域、保護者が一体となり、子どもたちのより良い学びを支えるための大切な場です。その意義のひとつは、先生方の努力や取り組みを、保護者をはじめとする地域の大人たちに伝えることにあります。先生方は日々考えながら教育活動を行っていますが、その過程がなかなか外からは見えにくいものです。学校運営協議会を通して、保護者が学校の実態を知ること、で、「先生方ががんばっていること」「考えながら授業をしていること」が理解され、先生方がほかの大人から褒めてもらえる場にもなります。これは、先生方が元気になる、より意欲的に教育に取り組むための大きな力になります。

学校運営協議会では、単に表面的なことを話し合うのではなく、「やりすぎでは？」という意見が出るほどに深く考え、意義のある取り組みを続けていくことが大切です。大人と子どもと一緒に学び、子どもたちの社会参画の機会を増やしていくことが求められています。その中で、総合的な学習の時間は、まさに子どもたちが地域の方々とともに学び、実践する場となります。子どもたちが地域に関わり、大人と共に考えながら行動することこそが、本来の「社会参画」のあり方であり、総合的な学習の時間はその役割を果たすものとなります。

また、防災や地域活動を考える上で、「一般的な知識を学ぶ」だけではなく、実際に地域を歩き、子どもの目線で問題を見つけることが重要です。大人と一緒に地域を歩き、気づいたことを共有することで、より具体的な学びにつながります。そうした経験を通じて、子どもたちは「地域の一員」としての自覚を持ち、大人とともに考え、行動する力を育むことができます。

さらに、学校と保護者の関係においても、従来のように「学校から保護者へ説明する」形ではなく、参観した保護者から率直なコメントをもらうことが有効です。子ども自身が保護者に対して「今日の授業で何を学んだのか」を話し、保護者が子どもに質問するような関係を築くことで、より深い学びが生まれます。先生が説明するのではなく、子どもたちのインタビューを通じて、「どうだった？」と直接問いかける工夫を取り入れることで、子どもの生の声を活かすことができます。

学校運営協議会は、単に話し合いの場ではなく、先生方を応援し、子どもたちを主体的に学びの中心に据えるための場です。保護者や地域の方々が関わることで、学校はより開かれたものになり、子どもたちは「大人とともに学ぶ」機会を得ることができます。この協議会を通じて、先生方が元気になる、子どもたちが地域の一員として成長していける環境を整えていくことが大切です。

委員

非常に中身が濃い議論となり、時間がオーバーしてしまいました。それでは最後に、事務局を代表して学校より、閉会の挨拶をよろしくお願いいたします。

学校

挨拶

委員

ありがとうございました。最後に事務局より事務連絡がありますので、司会を代わらせていただきます。

学校

令和7年度 学校運営協議会は、令和7年6月、11月、2月の計3回を予定しております。来年度も、どうぞよろしくお願いいたします。その他、何かございますでしょうか。

特にないようでしたら、本日の案件は全て終了しましたので、令和6年度 第3回五領中学校区学校運営協議会を閉会いたします。委員の皆様、ありがとうございました。

(20時00分終了)